

論文内容要旨

論文題目

山形県民におけるソーシャル・サポートの現状と生命予後、心血管予後との関連

所属部門：社会環境予防医学 部門
所属講座：公衆衛生学・衛生学 講座
氏名：宇津木 努

【内容要旨】(1,200字以内)

【目的】健康の社会的決定要因 (Social determinants of health : SDH) の要因の一つであるソーシャル・サポートは「社会的関係の中でのやりとりされる支援」と定義され、健康行動の維持やストレスの影響を緩和する働きがあり、健康面で重要な役割を果たす。本研究では、「山形県地域住民において、ソーシャル・サポートは健康習慣や生活習慣病、総死亡を指標とした生命予後、心血管疾患発症による死亡を指標とした心血管予後と関連する」との仮説を立て、その仮説を横断的・縦断的解析により検証することを目的とする。

【方法】山形県コホート研究参加者 (40歳以上75歳未満) で、生活習慣調査票の記入に同意を得た 16,684 人を対象者とした。ソーシャル・サポート 5 点満点中、3 点以下を低値群、4 点以上を高値群と定義し、対象者の基本属性および生活習慣、生活習慣病保有状況等の各変数との関連分析を行った。また、ソーシャル・サポート低値群を従属変数とした多変量解析を行い、ソーシャル・サポートに関連する要因分析を行った。さらに、Cox 比例ハザードモデルを用いて、ソーシャル・サポートと生命予後および心血管予後との関連分析を行った。

【結果】ソーシャル・サポートの現状は、低値群が 15.8%、高値群が 84.2%であった。ソーシャル・サポート低値群を従属変数とした多変量解析においては、「男性」、「同居者なし」、「配偶者なし」、「教育歴 13 年以上」、「充足感のない睡眠」、「週に 1 回以上の運動をしない」、「喫煙あり」、「ストレスが多い」、「笑いの頻度が少ない」の変数と有意な関連を示した。ソーシャル・サポートと生命予後および心血管予後との関連を検討した縦断的解析では、ソーシャル・サポート高値群に対する低値群のリスク比が有意に高い結果であったが、年齢、性別を調整因子として加えた多変量解析では、有意差は消失した。性別、年齢による影響を考慮し、高齢者と非高齢者および男女別に分類したサブグループにて解析を行った結果、生命予後との関連では、非高齢男性でリスク比 (95% 信頼区間) 2.64 (1.30-5.35) と、ソーシャル・サポート低値群の総死亡リスクが有意に高い結果であった。同様に、心血管予後との関連では、高齢者男性でリスク比 (95% 信頼区間) 2.61 (1.04-6.57) と、ソーシャル・サポート低値群の心血管死亡リスクが有意に高い結果であった。

【考察】本研究により、ソーシャル・サポートと生活習慣や健康習慣との関連を認め、ソーシャル・サポートが健康の維持増進に重要な役割を果たすことが示唆された。さらに、ソーシャル・サポートが少ない状態は、生命予後、心血管予後に関連することが示唆されたが、背景因子による影響を強く受けていた。今後も継続的に追加研究を行い、本研究結果の因果関係の究明や研究方法の妥当性を高めながら、山形県地域住民の健康づくりに向けたソーシャル・サポートの活用方法の検討を行っていく。

令和元年 8月 19日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 宇津木 努

論文題目： 山形県民におけるソーシャル・サポートの現状と心血管疾患発症、生命予後との関連

審査委員： 主審査委員

今田 恒夫

副審査委員

貞弘 光章

副審査委員

山崎 健太郎

審査終了日：令和元年 8月 19日

【 論文審査結果要旨 】

本研究は、山形県コホート研究のデータを用いて、これまで明らかにされていない日本人地域住民健診受診者のソーシャル・サポートの状況と背景因子、生命予後との関連を横断的、縦断的に検討したものである。その結果、本研究は、横断的検討では、ソーシャル・サポートが低い群は、男性、同居者なし、配偶者なし、笑いの頻度が少ない、などの特性と関連し、糖尿病の有病率が高いこと、縦断的検討では、ソーシャル・サポートが低い群は、総死亡、心血管死のリスクが高いこと、などを初めて明らかにした。この研究課題には学術的意義があり、研究手法は妥当で、得られた知見には新規性を認めることから、学位論文に値すると考えられる。

審査過程において、本研究の完成度を高めるために、以下の点について記載の追加や修正が望ましいと判断され、その後、指摘された点が適切に追加、修正されたことを確認した。

1. ソーシャル・サポートについての質問は、公的機関からのサポートよりも、主に家族や近隣からのサポートに関する情報である点に留意して評価すること
2. ソーシャル・サポートは同居家族の影響を受けるため、家族構成の情報も収集すること
3. ソーシャル・サポートと背景因子の関連をわかりやすい図や表で示し、背景因子は定性的・定量的どちらの形式で扱われたのか明らかにすること
4. 心血管予後のアウトカムの変数を明示すること
5. 研究方法について、サブグループ解析を行うことも含めて詳細に記載すること。
6. 全体の解析結果とサブグループ解析結果の図は分けて記載すること
7. 結果では、総死亡に関する結果を先に、その後に心血管死に関する結果を記載すること
8. 生存率を示す図のY軸の数値をわかりやすく表示すること
9. 解析結果のまとめを考察の前に提示すること
10. 考察内容が結果の単なる記載にならないように、想定される機序を含め充実すること

以上

(1,200字以内)